



子ども総合センターだより

明日もしあわせ通信 (第56号) 令和3年2月号

世界が賞賛した日本人の冷静さ、気丈さ

「私がどうしても滅ぼしたくない一つの民族があります。それは日本民族です。あれほど古い文明をそのままに今に伝えている民族はありません。日本人は貧しいです。しかし高貴です。」

太平洋戦争の真ただ中、駐日フランス大使のポール・クローデル氏は、パリで開かれた晩餐会でこうスピーチしました。当時フランスはドイツと戦っていました。日本はドイツの同盟国ですから、敵国です。それでも、滅びてほしくないと語ったのです。

1923年の関東大震災で東京のフランス大使館も焼けてしまいましたが、その時彼はこう書き記しました。「地震の日の夜、東京と横浜の間を長時間歩いている時、あるいは生存者たちが群れ集まった巨大な野営地で過ごした数日間、私は不平一つ聞かなかった。廃墟の下に埋もれた犠牲者の声も、どうぞ、どうぞお願いします、という慎ましい懇願の声であった。」

唐突な動きや人を傷つける感情の爆発で周りの人を煩わせたり迷惑をかけたりしてはならないのだ。同じ小舟に乗り合わせたように人々はじっと静かにしているようだった」と。

自分の身にふりかかった不幸を淡々と受け止め、どんな困難な時にも、ものを頼む礼節を忘れない姿勢に心打たれたというのです。

もちろんすべての日本人がこんなすばらしい人というわけではなかったでしょう。でも、あの東日本大震災の時も熊本地震の時も略奪や暴動は起きず、配給所やスーパーマーケットには整然とした長い列ができました。日本人の冷静さ、気丈さに、世界が驚き賞賛しました。

コロナ禍の日本はどうなんだろう、それよりも、今の自分はどうかだろう。ふと考えることがあります。

(N.T)



適応指導教室「はほたき」

「令和2年を振り返っての一文字」「令和3年を表す一文字」は？

昨年の日本漢字能力検定協会に「今年の漢字」として応募のあった漢字は「密」が一番多かったそうです。教室の子どもたちも令和2年の1年間を振り返り、一文字で表してみました。子どもたちは、「う～ん。むずかしいな。」と言いながらも自分の1年を真剣に振り返っていました。そして、その文字を選んだ理由もしっかりと話していました。

また、令和3年をどんな年にしたいのかの願いを込めた一文字も書きました。子どもたちの言葉に託された思いを大切にしていきたいと思います。その一部を紹介します。

令和2年の一文字とその理由

- Aさん「体」体育が好きでよく頑張った。
- Bさん「新」新しいことに挑戦した。
- Cさん「球」ボールを使ってよく遊んだ。
- Dさん「忘」色々なことをよく忘れた。
- Eさん「遊」あまり勉強をしなかった。
- Fさん「内」家にいることが多かった。

令和3年の一文字とその理由

- Aさん「新」新しいことを頑張る。
- Bさん「勉」今年は勉強を頑張る。
- Cさん「運」運動をして体力をつける。
- Dさん「覚」正確に物事を覚える。
- Eさん「合」高校を目指して頑張る。
- Fさん「健」元気で自由に動きたい。

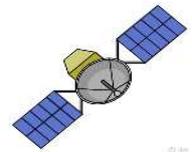
ホットな話題

世界中がコロナの感染拡大で元気を失っている状況の中、昨年末ホットな話題が飛び込んできた。

6年前、日本の夢と希望をのせて宇宙に飛び立った「はやぶさ2号」。見事その使命を果たし小惑星「リュウグウ」から砂などを回収し、貴重なサンプルを届けるミッションを果たした。これにより、生命に必要な物質や水がどのようにもたらされてきたのかが分かるかもしれない。なんとそのサンプル採取装置を製造したのは愛媛県にある工場だと聞いた。製造で求められるオーダーの誤差は、1000分の数ミリ。求められるのは高い精度や軽さ、強度。日本のものづくりは世界トップレベ

ルを維持してきている。常に良いものを作ろうとする強いこだわりと改善の精神が根底に流れている。ものづくりに対するあこがれを幼い頃から醸成している土壌がこの国を支えているのかもしれない。世界が大きく変わろうとしている今だからこそ、このものづくりの精神は将来にわたって静かに受け継がれ、ときにホットな話題として世界中を駆けめぐることが出来る。

「はやぶさ2号」の挑戦はまだ終わっていない。子どもたちの夢に向けての挑戦が楽しみである。(K・H)



発達支援巡回相談

< 就学までに身につけたいこと >

- あいさつ
- YESとNO が言えること
- 困ったときに言葉で伝えられること

小学校入学は、人生のゴールではありません。しかし、発達障がいと診断された子どもを抱える保護者にとって、就学は極めて大きな問題です。小学校入学は、幼児期のゴールであり、それまでに追いつきたいと思うのも親の願いとして理解できます。でも、人生の中で小学校入学は単なる一つのゲート！どのような就学をしても、それは成人になって振り返れば、単なる途中経過に過ぎないのです。

GOAL:最終目標は

- 自分に自信の持てる子に育てる
 - 社会で生きていけるように育てる
- すべての対応や療育はこのためにあります。

(幼児期のライフスキルトレーニングより)

(K)

センター長のつばやき

地球はひとつ

とてもうれしいことがありました。日本がいち早く「COVAX ファシリティ」(新型コロナウイルスのワクチンを、複数国で共同購入し、公平に分配するための国際的な枠組み)に参加表明したことです。

これまで、児童の権利条約の批准が遅かったり、核兵器禁止条約をまだ批准していません。さみしい思いをしていましたが、今回は、先進国としての役目を果たしてくれました。まだ米国やロシアは参加表明していませんが、抗HIV薬の教訓を生かした世界的な取組と、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団の資金拠出に拍手を送りたいと思います。



1970年大阪万博の翌年にリリースされた「地球はひとつ」(フォーリーブス)。この歌詞のように「地球はひとつ・みんなの地球・みんなの仲間」が、リリースから100年の2070年には、そんな地球になってほしいな！ (DOIG)

伊予市子ども総合センター

伊予市尾崎3-1

総合保健福祉センター2階

(電話) 089-989-6226

